

「接続料の算定に関する研究会」(第14回) に対する追加質問 (回答)

1. レートベースの厳正な把握について

： 構成員限り

質問1-1

FTTHで光化を全国ですすめていると思うが、公設民営や離島振興等でNTT以外のところが回線を引いている場合もある。未利用芯線の話は使えもしないところに投資しているという疑いをどこまで払拭できるかという点でいうと、NTTが不採算エリアにどの程度投資していないのかというデータを示せないか。【関口構成員】

回答

- 当社は、我が国のブロードバンドの普及拡大と高度なICTインフラの利活用促進に向けて、FTTHアクセスサービスの提供エリア（以下、光エリア）の拡大に努めてきました。その際、採算が見込めないと判断したエリアは、IRU方式や補助金を活用してきました。
- 2018年3月末時点における自社投資、IRU方式や補助金を活用して光エリア化したビル数等に関するデータは以下のとおりです。
- また、上記以外で、採算が見込めず光エリア化していないビルは [] となります。

	展開ビル数	固定電話施設数
NTT東日本	3,105	2,933万
自社投資	[]	
IRU・補助金活用		
光未提供		
NTT西日本	4,051	2,906万
自社投資	[]	
IRU・補助金活用		
光未提供		
NTT東西計	7,156	5,839万
自社投資	[]	
IRU・補助金活用		
光未提供		

「接続料の算定に関する研究会」（第14回）に対する追加質問（回答）

1. レートベースの厳正な把握について

質問1-2

需要が思ったより伸びなかった場合、投資判断が正しくなかったと事後的にわかるが、その場合の余剰投資に要した費用を自分たちの経営の中で吸収するのではなく、消費者や接続事業者に転嫁していいのかという疑問に対してどのように考えるか。【佐藤構成員】

回答

- 当社は、直近の需要だけでなく、故障時の即応や将来需要への対応も考慮し、工事の頻度・内容による費用の発生状況や物理的な制約を踏まえつつ、最適となる種別のケーブルを選定して全体的にコストミニマムとなるような投資を行っています。
- さらに、光ファイバ需要については、光アクセスサービスだけでなく、携帯電話の基地局回線やイーサネット・VPNサービスの足回りとして多様なサービスに用いられており、今後は5GやIoTへの活用も見込まれることを踏まえても、現時点の芯線使用率をもって、投資判断の是非を判断することはできないと考えます。
- 仮に、直近の芯線使用率の向上だけに着目して芯線数の少ないケーブルを随時敷設すると、却って投資が割高になるだけでなく新規需要への迅速な対応も困難になり、将来を見据えた基盤構築に向けた設備投資も停滞することになるため、当社も接続事業者もその影響を受けることになると考えます。
- こうした影響を受けないように、未利用芯線に係わるレートベースは接続料算定上の原価から除外することなく、当社利用部門も含めた利用する全事業者で応分に負担いただく必要があると考えます。
- なお、接続事業者様から要した費用の一部を回収可能であったとしても、当社利用部門が費用の大半を負担する状況であり、光サービスのユーザ料金は要したコストを全て料金に転嫁する総括原価方式ではなく、競争環境の中で決定されていることを踏まえれば、当社が非効率な設備構築を意図的に行うことはありません。

「接続料の算定に関する研究会」（第14回）に対する追加質問（回答）

1. レートベースの厳正な把握について

質問1-3

長期の投資の費用を接続料算定に入れてしまうと、将来効果を発揮する投資に関して、現在の人があるコストを払わなければいけないのかという世代間の不公平のような問題も起こってくるように思う。そういう意味では投資に対してどのぐらいの未利用芯線があって、それがどういふふうに使われているのか。また、過去10年における余剰設備の動向が分かるデータを示せないか。【佐藤構成員】

回答

- 世代間の不公平という観点については、仮に、直近の需要だけに応じた最低限の芯線数となるケーブルを随時敷設した場合、一部の世代においてはコスト低廉化が図られる可能性はあるものの、非効率な設備構築に伴うサービスの提供料金の高止まりを招くことに加え、迅速なサービス提供や故障対応が困難になるといったサービス全体に係る問題が生じると考えます。
- 当社の局出し区間における過去の芯線使用率は以下のとおりです。

	2008年度末	2009年度末	2010年度末	2011年度末	2012年度末	2013年度末	2014年度末	2015年度末	2016年度末	2017年度末
芯線使用率	40.3%	44.5%	47.5%	49.8%	52.5%	54.3%	55.6%	56.3%	56.8%	56.8%

- なお、局出し区間以外の区間については、過去の芯線使用率データは持ち合わせていません。